

「私の子どもも、保育園から『消えた』ことになるのでしょうか」――。

和歌山県内の介護士の女性(48)は、身体障害のある21歳の長男と19歳の次男を連れて1年2カ月、街をさまよい、心中まで考えた経験を語った。

夫が家の中の物を壊して暴れるようになつた。借金も重くのしかかり、保育園に入れた3歳の長女と2人の息子と身を隠した。関東地方の実家は老いた父だけ。役場の窓口を何度も訪ねたが、助けにならなかつた。

借りられる家はなく親子でホームレスに。長女はいったん里子に出したが、息子2人とネットカフェや複合施設の公共スペースなどで夜を明かす日々が続いた。

2010年(平成22年)11月26日(金) 14版 社会 30

約2年前、施設から雪の中に締め出され、心が折れた。子どもたちは「死ぬなんてダメだ」。「私を見捨てなかつた子どもがいたから生きられた」

09年春、偶然、民間の生活支援相談事業のチラシを見かけた。生活保護の申請ができる生活を立て直せた。長女を再び保育園に通わせ、働きに出た。

今は子育てに悩む人の相談にも乗っている。事業の関係者は「役所の相談窓口に行つても対応が悪い」と『不信』や『あきらめ』になつてしまふ。民間も加えたネットワークで支えきる姿勢が必要

親に生きる力を

だ」と話す。

■ 親の生きる力を高めることで子どもの生活を安定させられないか。母親支援の取り組みも始まっている。

「人と目を合わせられへん」。今月初旬、大阪市東成区の母子生活支援施設「東さくら園」。3人の子を持つ女性(28)訴えに、社会的弱者の自立を支援するNPO法人

「WANA関西」代表理事の藤木美奈子さん(51)が大阪市立が「何でやる」と問い合わせる。「人は信

用できへん」と思つてか

らかな」。悩みながら答

える女性に「その考え方

を変える方法を学びまし

ょう」と語りかけた。他

人とのかかわり方を学習

する認知行動療法「ソーシャルスキルトレーニング」だ。

藤木さん自身も貧しい

母子家庭に生まれ、義父

から虐待、前夫にも暴力

を受けた。離婚後も人と

のかかわりがうまくいかず、職場など「けんかを

繰り返した。

「家族から暴力を受けた影響」と気付き、行動前に一呼吸置いて相手の受け答えを予想すること

が改善したという。

東さくら園がソーシャルスキルトレーニングを取り入れたのは、一部の入所者に人間関係を築く

能力の弱さがみられたた

めだ。職が続かなかつた

り、子を連れて突然姿を

消すケースも年間数件、

発生する。

廣瀬みどり施設長(53)

は「そういう母親は厳し

い環境で育っている」と

強調する。藤木さんも「不

安定な環境で育つた人は

そうでない人と同じスター

トライインに立てない。

まず心をケアしたい」と

トレーニングの意義を話

した。【児童虐待取材班】

■つづく

救え幼い命

「消えた子」どこへ

4

をする藤木美奈子さん=貝塚太一撮影



ご意見、ご感想は、メール o.shakaibu@mainichi.co.jp、ファクス06・6346・8187か、〒530-8251(住所不要)毎日新聞社会部「虐待取材班」まで。

